

第5回防火研修会概要報告

主題：『社会福祉施設の夜間の火災安全確保について考える』

会場：ラポールひらかた 大ホール

日時：平成24年9月11日(火) 13:30～17:00

主催：特定非営利活動法人日本防火技術者協会

共催：社会福祉法人 枚方市社会福祉協議会

施設関係参加者：78名

はじめに

特定非営利活動法人日本防火技術者協会（以下、日本防火技術者協会と記す。）では、『社会福祉施設の夜間の火災安全確保について考える』をメインテーマとした第5回防火研修会を、関西地区で初めてラポールひらかた大ホールを会場に開催した。

開催にあたり社会福祉法人枚方市社会福祉協議会の共催を得て、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、介護老人保健施設、ケアハウス、共同生活介護等の施設から合計78人の参加者を集めて盛況のうちに終了した。

防火研修会の趣旨

夜間の高齢者福祉施設などの火災で、多数の死傷者が発生した報道が相変わらず報じられています。このような事故が少しでも低減できればと考え、特定非営利活動法人日本防火技術者協会では、研究事業の一つとして「老人福祉施設・学校教育施設の避難安全性に関する研究会」を設置して、「高齢者施設など」での火災時避難安全性確保のための方策について検討するとともに、防火研修会や出前講座などさまざまな啓発活動を行ってきた。

2009年に開催した第1回防火研修会では、当研究会が作成した入所者用及び施設管理者用の安全性確認チェックシートの解説、高齢者施設を取り巻く火災安全上の諸問題について学識経験者の講演、ならびに関係施設実務者との意見交換の場を設けました。

次いで2010年の第2回防火研修会では、第1回研修会の要望を受けて「火災現象」をご理解いただくための映像情報などの提供とゲーム感覚で行う消防・避難訓練の方法の紹介を行いました。ここでも活発な意見交換も行われ、我々研究会にとっても有益な情報を得ることができました。

2012年3月5日には第3回防火研修会として、施設関係の皆様からの要望で実施したいくつかの出前講座での経験を踏まえて、特に日頃懸念が大きい「夜間少人数介護時における火災発生時対応の問題」に関して、訓練のあり方、発災時対応など基本行動方針策定に関する夜間対応マニュアルについて紹介しました。

また、2011年3月11日の東日本大震災において、高齢者福祉施設なども数多く被災しました。この被災状況についても調査した結果を報告しました。

本年の8月16日には東京都練馬区内のユニット型特別養護老人ホームで出前講座を、9月6日には東京理科大学で第4回研修会を実施しました。

今回は、私たちの首都圏での研修活動の成果を、ぜひ関西でもご紹介したいと思い、枚方市

社会福祉協議会のご好意で、共催という形で皆様にお話する機会を設けていただきました。私たちがこれまでに実施した防火研修会の内容を再構築し、また、最近増加傾向にあるユニット型特別養護老人ホームなどに関する最新の知見も加味し、特に夜間に火災が発生した場合の避難対応マニュアルについての講習を実施することとしました。

また、講演のあとに、各施設において実務に携っている方々との防火相談会を行いたいと思います。日頃、感じている疑問や不安なことをお持ちいただき、一緒に考えてみませんか。



写真1 ラポールひらかた全景

防火研修会プログラム

主題：『社会福祉施設の夜間の火災安全確保について考える』

講演

司会：社会福祉法人 枚方市社会福祉協議会
寺島千鶴さん



写真2 司会状況

「防火図上演習（F I G）をやってみませんか」
「火災事例に見る教訓と防火対策」
「夜間避難マニュアルと避難訓練方法」

大西一嘉
栗岡 均
佐藤博臣

防火相談会



写真3
相談会の状況

開会挨拶

第5回防火研修会の開催にあたり、橘隆事務局長より関西地区で開催の経緯説明、佐藤理事よりNPO日本防火技術者協会の紹介と本研究会の今までの活動経過と研修会の趣旨説明を行った。



写真4 橘 隆事務局長の挨拶



写真5 佐藤理事の挨拶

「防火図上演習（FIG）をやってみませんか」

神戸大学 准教授 大西 一嘉

施設によって、建物の階数、古さや建て方も違うし、入居者の避難能力やスタッフの力量も大きく違います。夜間火災時に十分な職員がおらず対応に不安を覚えることもあるなど、十分な防火対策を進めづらいのが現状です。お決まりの消防計画をそのまま使用するのではなく、現場のニーズに対応したものをそれぞれの実態に応じて独自に作成するにはどのようにすればよいのか？ 未だ確立された進め方はありません。

そこで今回提案するのが『火災図上演習 FIG』です。FIGを用いた「防火戦略発見型訓練」に実際に取り組んで進め方を実感してみませんか？まず用意するのは、周辺地図を含めた平面図です。平面図は 1/100 位が適当です。スチレンボードなどに貼り付けておきます。この平面図の上を、人や炎に見立てた模型を動かしながら、出火場所の想定や避難支援方法について図面を囲んでスタッフ同士や、入所者を交えて話し合います。通常の消防訓練では出火から避難完了まで、全てが順調に進むシナリオが用意されていることが多いのですが、現実にはその通りうまく事が運ぶことは滅多にありません。



写真6 大西氏講演状況

消火に失敗する、避難がうまくいかないなど、最悪のシナリオを想定してそれらにどのように対処するのか考えていく中で、参加者が防火の課題を共有し、いざというときに的確で柔軟な対応ができるような訓練をする必要があります。

こうした「楽しみながらやる参加型訓練」には、他にも以下のようなプログラムがあります。

①白黒つけにくい問題で、意見をぶつけあいながら楽しむ「対戦学習型訓練」

②入所者向け防火教育用教材としての「防火紙芝居」

たまには、みんなでワイワイとやる防災訓練に、さあ、レッツトライ！

「火災事例に見る教訓と防火対策」

日本消防検定協会 技術参与 栗岡 均

近年、老人介護社会福祉施設の火災事故が多発している。このような高齢者社会福祉施設に求められている防火教材とは何なのだろうか？

過去 2 回の研修会でアンケートにより皆様の要望を整理してみると多岐に渡っての項目があげられた。その中でも過去の施設火災には多くの教訓が潜んでいる。火災が発生した施設の概要、火災の概要とその火災によって何を学びどのような法規の改正に結びついたのかを紹介させていただいた。

また施設の運営・管理に当たっては、当初の建築設計段階の考え方を汲み入れた非常時の対応計画になっているのか、今一度、振り返ってみる必要がある。例えば、

バルコニーや滑り台などが設置されているが、非常時はそれらを有効に利用する計画になっているだろうか、自立歩行ができない入所者たちに階段室を利用した避難計画を作成してはいな



写真7 栗岡氏講演状況

いのだろうかなどのさまざまな項目の確認が必要になる。

計画書類の妥当性の確認は勿論、避難訓練に関して技術的に明るい第三者のチェックを受けることが望ましく、老人介護福祉施設の実践的な夜間防火マニュアルの作成が当研究会の宿題となっていた。施設には様々な防火設備が設置されている。これらの設備の機能を理解して、夜間の介護スタッフが少ない時に火災が発生した場合の現実的な対応として、上手く使いこなすことが重要になる。施設に備わるこれらの設備と非常時のスタッフの活動の関係について説明を行った。

「夜間避難マニュアルと避難訓練方法」

ビューベリタスジャパン(株) 佐藤 博臣

特別養護老人ホームなど多数の要介護者を抱える施設では、特に夜間は、介護職員数に比べて要介護者数が圧倒的に多いため、火災が発生すると惨事につながりやすい。このため、スプリンクラー設備、消防機関に通報する設備、バルコニー、防火戸などが消防法にしたがって設置されていることが多い。しかし、これらの施設の介護職員の多くは、これらの設備等をどう使えば火災発生時に適切な対応ができるのかわからず、不安を感じつつ、定形的な避難訓練を繰り返しているのが実態である。

本講義では、このような実態を解消することを目的として当協会で作成した「老人介護施設の実践的な夜間防火マニュアル(案)」をもとに、従来型の特別養護老人ホームにおいて夜間に火災が発生した場合、個別の施設の特性に応じて介護職員は戦略的・戦術的にどう行動すべきかについて解説した。

具体的には、目標時間以内に介護職員自身が単独の能力でできること、共同作業でなければできないことの境界を明確にしてもらいたい。そのために目的意識を持って訓練を行うことが臨機応変な行動を行う上で有効であると考えた。

そのため、事前の準備として、各施設の防火安全上の対策について日頃から理解し活用できるようにしておくこと、避難移動にどれだけの人手を要するか知るために入居者の行動・判断能力がどの程度であるか把握しておくことなどの重要性を説明した。

次いで施設の防火性能に基づいた目標避難時間の算出方法について紹介した。

また、夜間火災発生時に円滑かつ迅速な避難を達成するために、施設管理者や介護職員がそれぞれ果たすべき役割についても解説した。



写真8 佐藤氏講演状況

(参加状況)

特別養護老人ホーム	20 施設	28 人
養護老人ホーム	1 施設	1 人
介護老人保健施設	5 施設	7 人
ケアハウス（経費老人ホーム）	2 施設	3 人
共同生活介護	7 施設	7 人
小規模多機能型居宅介護	2 施設	2 人
介護付き有料老人ホーム	1 施設	1 人
障害者サービス事業所		
障害福祉サービス事業所	6 施設	11 人
就労継続支援 B 型	2 施設	4 人
地域活動支援センター	2 施設	2 人
障害者支援施設	2 施設	3 人
社会福祉協議会	3 協議会	9 人
合計		78 人



写真9 参加者の聴講状況

防火相談会

(相談事項の概要) 記録：NPO 日本防火技術者協会 仲谷一郎

障害者向けのケアホームを公営(府営)住宅の一部を使って、立ち上げようとしている。しかし、枚方市の消防からは、消防法施行令別表(6)項口に該当するので、建物全体を法規で定められている消防設備を設置すると共に共同防火管理者を置くことを指導された。

障害者の置かれている状況からは(同一の利用者でも入所時の条件では、(6)項口に該当せず、通常の施設でよかったが、時間と共に要介護度が上がるので施設の改善が必要となる。)、消防からの指導を実現するのは現実的に無理なので困っている。府内の他市では同じ条件下でも認可されている施設もあり、指導内容が適切なのかも疑問に感じている。

(研修会のまとめ)

第5回防火研修会は東京都以外の都市で初めて行った研修会であった。また、防火相談会という形で施設の関係者から直接抱えている問題をお聞きするのも初めての試みでもあった。

NPO 法人の活動を首都東京だけではなく地方都市に拡げて、当研究会が提案する手法の適用性の確認(多様な要望の反映)と共に、地域固有の問題を再発掘する機会でもあった。

今回の場合、通常から大西会員と枚方市社会福祉協議会との信頼関係が構築されていたために非常にスムーズに進行され、全体の印象としては施設関係者の期待に応えられたものと判断しているが、今回の試みが成功か否かについては、アンケート結果の詳細な分析を待ちたい。

第5回防火研修会のアンケート回収状況

- 1) 出席者数：78人
- 2) 施設アンケートの回収数：9件
- 3) 研修会参加時の個人アンケートの回収数：61件

(終わりに)

研究会に所属しての会員の居ない場所での研修会を開催だったために、準備・進行に関して不安な要素が多々あったが、今回、社会福祉法人枚方市社会福祉協議会の全面的な協力の下、無事終了することができた。永田久美子常務理事、橘隆事務局長、上田和央次長兼総務課長、原田かおる在宅福祉課長の支援、また司会進行をお願いした同協議会寺島千鶴さんに感謝の意を表します。

以上